

溶岩トンネルは溶岩洞とも呼ばれ、火山噴火により超高温の岩石が流出した際に作られます。溶岩の中心部は極めて高温を保ち続けますが、表面は空気や水に触れた瞬間、急速に温度が下がります。温度の下がった溶岩は、冷えた部分が急速に固まり「屋根」になりますが、高温の中心部は流れ続けます。溶岩が吹き出して途切れる所まで達すると、通った跡に洞窟が残ります。

富江には数多くの溶岩トンネルがありますが、その中でも井坑は最も規模が大きく、全長は 1,400m 以上に及びます。入り口から約 400m の地点では、幅が 1m ほどまで狭まり、水で満たされています。

研究者たちは洞窟内部で様々な洞穴生物を発見しました。ハゼの小型な盲目種であるドウクツミズハゼなど、どれも珍種やこの地特有の生物ばかりでした。ドウクツミズハゼは絶滅危惧種に指定されており、日本国内では、ここともう一箇所には生息していません。

「井坑」溶岩トンネルは一般の立ち入りが禁止されていますが、巨大な入り口は人気の観光スポットになっています。